

天正十七年龍山公
鷹百首吉高本
行書筆市橋の
其のむくも
ちぬる鷹の母
よはせぬはよ
とゆるとハ鷹の
毛とててもや
ありゆるとハ

はふれとゆふのあつさやもちを羽つよくもやむ
是も古語のまゝあつてはれもあつて歌や梓弓ハ妻の
冠辭へるも引もつても皆弓の縁語也鷹ハ山へ歸る
るハ羽つよく引くゆるとちもや

鷹ハ人のあつて遠目れぬやハあやまるのいのちをけしむ

遠目れあつて人の事也今ハ見る見なるとハ狩場の役名あり

此事也このあつてはるもやててててて安と歌に萬葉

集卷六

幸吉野
時の長奇

見芳野乃飽津之小野笑野上者跡見

スエ
オキ
テ

三
ヤマニハ

居置而御山者射日立渡朝獵尔十六履起之夕狩尔

トリ
レミ
タテ

十里蹋立又同卷八卷十三中も射日立而るどあり冠辭考ふ